

博報財団 第12回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	SHIRANE Haruo (シラネ ハルオ)
在住国名	アメリカ
所属・役職	コロンビア大学
招聘回(招聘研究期間)	第12回 (2018年3月7日 ~ 2018年8月31日)
受入機関	早稲田大学
招聘研究テーマ	人間世界と神々や死者の霊の世界との境界を行き来する媒介としての芸能が持つ儀礼的・社会的役割
研究目的	基礎資料の収集、芸能の直接体験、年中行事の調査、本の草稿の完成
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>中世芸能と深く関係している年中行事(四天王寺の聖霊会、東大寺の修二会、など)の現地調査、賤民芸能者の調査(旧清水坂など)。中世芸能や文化研究の専門家(阿部泰郎、小峯和明、山中玲子、宮本圭造、高橋悠介、兵藤裕巳、恋田知子、竹本幹夫、平野多恵、吉野朋美など)と深い研究交流。能楽師(鶴沢久)に謡を習う。受入教授(十重田裕一)のサポートを得て、早稲田大学図書館で基礎資料を探索、整理、解読。</p> <p>以下の五章の草稿を完成。</p> <p>第一章(5月1日):「仲介者としての童、翁、巫女」</p> <p>第二章(6月1日):「死霊、疫病、芸能」</p> <p>第三章(7月1日):「地獄巡り、蘇生、勧進」</p> <p>第四章(8月1日):「鬼、天狗、武家もの」</p> <p>第五章(9月1日):「賤民、穢れ、説経節」</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>芸能者(媒介者)の二面性の発見と考究: 芸能者(媒介者)が神や仏に向ける顔(人間が神や仏に捧げるもの)と神や仏から人間に告げるもの(神や仏から人間に告げるもの)。詳しいことは以下の論文欄に記載。</p>	
<p>3. 研究成果(予定を含む)</p> <p>○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))</p> <p>中央大学国文学会大会 「参加型文化」の日本—体験・教育・伝承—」2018・6・25</p> <p>名古屋大学特別講演 「国際日本研究の現状と大学院生の養成」2018・6・30</p> <p>岩波書店<作者>研究会 「参加型文化—作者性を考えなおす」2018・7・5</p> <p>立教大学<環境文学>シンポジウム 基調講演 「二次的自然と日本の里山」2018・7・28</p> <p>早稲田大学特別講演 「<参加型文化>と日本—伝統演劇から現代マンガまで—」2018・8・3</p>	
<p>4. 今後の活動予定</p> <p>英語出版にむけて、2018年末までに本を完成する。タイトル(仮題): Showing the Unseen: Gods, Demons, and Ghosts in Japanese Performing Arts(『見えないものを見せる—神・鬼・幽霊と中世芸能』)。このテーマに関連した授業や講演を行なう。</p>	